

Day

2

タイトル

2. SDGsのためのデータ収集
(3) SDG指標12.4.2 & 12.5.1 –方法論とパイロット結果

発表者

国連環境計画 科学部SDGsデータ課化学物質廃棄物プロジェクト David Marquis

要約

発表者は、人口増加により2050年までに廃棄物量が70億から100億トンに増加し、多くの国や都市が廃棄物を適切に収集、運搬、処理、処分できなくなるという問題を指摘した。環境、化学物質、廃棄物に関する統計データは問題の特定と定量化には不可欠であり、ACCPは統計における能力開発のための重要なメカニズムとなるであろうと述べた。持続可能な開発目標(SDGs)には、持続可能な開発の社会的および環境的側面を網羅する17の目的、169の目標および232の指標が含まれおり、指標の算出方法の開発及びデータの収集・管理は、それぞれの指標を担当する機関に委ねられていることを説明した。

また、発表者は、財務的、技術的な観点から、有害廃棄物管理の問題についても言及した。電気および電子廃棄物も急速に増加しており、貴重な材料および有害な材料の両方を含むというその組成のために、特に関心と懸念が高いと述べた。

UNEPは、2つの廃棄物関連SDG指標(12.4.2および12.5.1)の管理者であり、方法論と能力開発ワークショップの試行がいくつかの国で実施されており、近い将来さらに多くの活動が計画されていると説明した。この方法論は現在開発中であり、パイロット試験が進行中で、ACCPを重要な協力機関と認識していると述べた。

アフリカでは電気および電子廃棄物は問題視されているか、との質問に対し、発表者は、これらの廃棄物は、アフリカでは重大な懸案事項であり、その理由として、大陸の急速な発展と中流階級の急増、および処分するための電子廃棄物の輸入などを挙げた。各国で環境的に健全な電気電子廃棄物回収システムを開発し、海外からの廃棄物の流入を管理することが重要であり、そうしなければ、環境汚染と人体に影響を及ぼす危険があると述べた。